

こんにちは！ 室長の工藤です。

明治42年(1909)、青森市の歴史を初めてまとめた本、『青森市沿革史』が刊行されました。今回は、この『青森市沿革史』の編さん過程についてご紹介しましょう。青森市が編さんを決めたのは明治34年のことで、新聞報道では翌年には編さんが終わるだろうと見込まれていました(『東奥日報』明治35年11月7日付 以下、『東奥日報』紙の引用は日付のみを記します)。

編さん当初の『東奥日報』紙を繰ってみると、市の事業である『青森市沿革史』の編さんは市の体面・名誉と密接に結び付くことから、相当の費用でもって完全を期すべきという論調でした。

さらに面白いのは、青森の歴史はまだ300年足らずで、しかもその300年は「波瀾も変化もない歴史である」と報じているところです。ただ、波瀾も変化もない歴史だからこそ、実は『青森市沿革史』の編さんは容易ではないとも言います(以上、明治34年7月11日付・11月21日付)。私が青森に来た頃、市民のかたから「青森は歴史のない町」というフレーズを聞かされることしばしばありました。これと似たような感覚なのかしら…とこの記事を読んで思いました。

さて、執筆は弘前藩の藩校稽古館の教師を務めた葛西音弥です。どうやら葛西氏の編集権は絶大なものだったようで、一応の資料調査が終了したという明治35年11月以降も彼は調査を続けていたようです(明治36年6月27日付、同41年6月6日付)。そのためでしょうか、本の脱稿は当初の見込みより大きく遅れ、明治39年5月18日ようやく原稿が市に渡されました(明治39年5月19日付)。完成原稿は2500枚にもものぼる大著でした。しかも次の作業は印刷・製本ではなく、清書することで、これには丸2年かかりました(明治41年5月29日)。



葛西音弥先生碑(合浦公園)

清書が済むと、いよいよ印刷・製本となります。これが完了し、発刊となるのが明治42年のことです。現在私たちが広く目にするのは、この印刷版ではなく昭和48年(1973)の復刻版で、明治42年発刊のオリジナル版はなかなかお目にかかれませんが、ちなみに、オリジナル版全3巻のうち、市民図書館の蔵書も1冊を欠いています。

このような経緯で『青森市沿革史』は編さんされたのですが、まだ印刷・製本が完了しない段階で、『東奥日報』紙では複数の人物で数回『青森市沿革史』の書評を載せています。次回の担当回では、この書評をご紹介したいと思っています。